

目標達成計画

作成日：平成 25 年 5 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の気持ちをくみ取るよう話し合いをかさに、また、職員一人ひとりがその努力につとめているのは伺える。しかし、共同生活の上で、一律にしてしまいがちのところもあるため、共同生活の中での個人ととらえ利用者一人一人を見つめる必要がある	共同生活であっても利用者が自分のペースで日常生活を送れる環境を提供する。	要望は一人ひとり異なるため、その要望に耳を傾向け、施設の勝手な基準で生活を送らせないようにする。例えば、集団で行う時間を決めるのではなく、個人の生活リズムや要望を把握し、それぞれの時間が過ごせるように支援する。	6ヶ月
2	43	排泄状況の把握はできているが、布パンツが濡れるとかわいそうだからという理由で、リハパンにするほうがいいのではないかと判断し、リハパンになることが見られる。「快適」と「自尊心の尊重」両方の意見があり、その両方が合致するためにも話し合いを深める必要がある。	利用者の自尊心を尊重し、快適・心地よさ・能力維持も含めた話し合いを重ね、実践につなげる	ミーティングの機会を活用して、目標達成に向けて取り組む。	3ヶ月
3	45	入浴の時間がおおむね施設の時間に偏っている。その理由には、食事介助者がいること、夕食後から入眠までの間に、介助が必要な人が増えたと、職員がその時間帯2人であることがあげられる。職員の思いとして、毎日の入浴提供したいというところにあるため、見直す必要がある	入浴の必要性と目的について職員で話し合い、その人にとっての入浴を考える	ミーティングの機会を活用して、目標達成に向けて取り組む。職員の入浴させたいという思いに偏らず、強制的な入浴にならないようにする。	3ヶ月
4	36	排泄を失敗した際、ほかの利用者にも聞こえるほどの声をあげてしまうことが見受けられる。また、「〇〇さん便出た？」という会話が日常的に見られ、職員も配慮しなければいけないという意識が低迷している。	自分の発言に注意し、一人ひとり気をつける	職員一人一人が意識をし、心がける。ご本人へトイレ誘導する際は、やむを得ない時もあるが、ご本人に気づいていただけるような声かけと、周囲に配慮した声かけに気をつけるようにする。	1ヶ月
5	4	運営推進会議の開催が滞っている。理由は、家族の参加ができないこと、時間帯、があげられる。解決方法を探しているが、見つからないのが現状。	運営推進会議の開催をする。	2か月に1度の開催を行い、地域、家族の参加を促し、よつ葉の現状を知っていただく。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。